

何にても七種とりならべて、御前に供ず、親王御同宿のとき、女御などあるときは御相伴なり、御前を撤して後女中御かつうを持參して、御前にて給る、今日は女中の衣しやうすゞしのうらのねりに、こしまきをする也、こしまきはねりにても、まろすゞしにても、おもひくゝなり、内々の男衆は、兼日長はしより、ふれ催して參る、常の御所の南面をとり放て、ひさしと申の口との間に、翠簾をかけわたして、女中見物の所とす、男衆おもひくゝにかつうを持參してすのこに候ず、公卿一列殿上人は、公卿の後に又一列也、上段の南のはしに、玄とねばかりを、玄かせおはしまして御見物也、とりくゝかつうを給はる、事はて、下薦よりまきぞく、更に各す、み出て、元の座につく、六位の藏人てうしに肴の臺なども出て、御とほしあり、五ど土器などいで、うたひなどうたふ、毎度ゑひ過たるもの多くしてにぎはし、

〔洞中年中行事 六月〕十六日嘉祥御盃の事如常、女房言にかつうと云は、嘉祥通寶の中りやくしての事也、

〔禁中年中行事 六月〕十六日 御嘉通

院中攝家親王門跡御連枝方内々
公家衆女中方御内上下平被下

〔禁中近代年中行事 六月〕十六日 嘉定、女中ことばにかつうといふ、

晝すいせん上ル、葛切の事なり、銀のはちに入ル、三方に銀の大ざら七寸程の銀のちよくに、玄やうゆの汁入ル、銀のすくひ有ゆのこすくひなり、御はし有、次に七かじやうむくぐわし七色あいのかわらけ七ツに入、七色の内うづら餅有、うづらの鳥のごとし、親王法親王方へ大まなちう被下、さし渡し五六寸ほど、是をたいぶまんちうといふ、親王方女中方より、いろくゝの蒸ぐわし献上なり、攝家親王清華諸家の堂上、御内の地下の北斗迄に、くろ米壹升六合已下、此米を一條どほりの二口屋といふくわしやへ遣し、米壹升六合相應のむしぐわしをとり、堂上方此くわしを御所へ持參してまゐる也、